

令和 7 年度第 1 回滝沢市総合教育会議 議事録

(令和 7 年 9 月 2 9 日 (月) 開催 1 3 時 2 7 分～1 4 時 3 7 分)

○(司会)企画政策課総括主査

ただ今から、令和 7 年度第 1 回滝沢市総合教育会議を開催します。はじめに、武田市長より挨拶を申し上げます。

○(挨拶)市長

それでは、本年度第 1 回目となる総合教育会議の開催に当たり一言御挨拶申し上げます。本日は、お忙しい中、このようにお集まりいただき、ありがとうございます。

また、教育委員会の皆様におかれましては、日頃から、本市における学校教育、生涯学習、文化・スポーツの推進など幅広い分野に対し、御尽力を賜っておりますことに、心から感謝を申し上げます。

本会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき、地方公共団体の長と教育委員会が、教育大綱のほか、教育条件の整備等重点的に講ずべき施策や、児童・生徒等の生命などに関わる緊急の場合に講ずべき措置等について協議する場として開催されており、本市では、年 2 回の開催を予定しております。

本日の議題は、「令和 6 年度滝沢地域社会報告書について」及び「学校配置の会計年度任用職員の活用について」であります。

本日の会議が実り多いものとなり、本市の子どもたちの健やかな成長につなげてまいりたいと考えておりますので是非とも活発な意見交換ができればと考えております。

教育委員の皆様には、本市の状況や取組に理解をいただきながら、子どもたちの未来のために、今後とも御尽力を賜ることができればと思っております。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

○(司会)企画政策課総括主査

続きまして、太田教育長より御挨拶をいただきます。

○(挨拶)教育長

令和 7 年度第 1 回総合教育会議を開催いただき、教育委員会を代表してお礼を申し上げます。

この会議は、教育委員会制度改革の中で、市長が主催し、教育委員会の大綱の作成や教育の条件整備などの予算等について、また、小中学校におけるいじめの重大事案について、市長や教育委員会教育委員の皆様から御指導、御意見をいただく機会ともなっております。まさに教育の総合的な会議の場となっているところであります。

昨今、国内全体の教育に関わる動きは、日々様々な事案が報道されているところであります。今年 6 月には、学校における働き方改革の一層の充実を図るために、優れた教員の人材確保の必要性から、改正給特法が成立しました。内容は大きく分けて 3 つの事項となります。1 点目は、教育委員会は業務量管理・健康確保措置をするための計画の策定、公表及び総合教育会議での報告が義務付けられたことであります。

来年度以降の本会議の場にて教職員の勤務状況等について報告することとなります。

2点目として、教職員間の総合的な調整役として新たに主務教諭を創設したことです。

3点目として、高度専門職としてふさわしい処遇の実現のために、教員調整額を現行の4%から段階的に10%まで引き上げることです。また、職務や勤務の状況に応じた学級担任手当が加算されていくこととなります。

本日は、市教育委員会が運用しております会計年度任用職員の市内小中学校への配置状況と、活用状況等についてご説明させていただきます。

本市では、他市と比較して様々な支援員を任用しており、児童生徒へのきめ細やかな支援体制を整えているところであります。

また今年度からは新たに教職員の業務支援として、すずのねサポートスタッフを任用し、学校現場からは教職員の必要な時間が確保できるようになったということで、感謝の声を多くいただいております。武田市長には、毎年多くの教育予算を確保いただいていることに改めて感謝申し上げます。

しかしながら近年の猛暑の中、学校現場では熱中症対策に取り組んでまいりましたが、普通教室へのエアコン設置は完備の一方で、特別教室はエアコン未設置の学校が多い現状であります。更なる教育環境の整備が課題と考えられますことから、引き続き環境整備への支援を検討いただけますと幸いです。

結びになりますが、市長と教育委員が総合教育会議で協議し、教育政策の方向性を連携共有することで、滝沢市の教育をより良い形に進めていきたいと考えております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○（司会）企画政策課総括主査

それでは次第の3「議題」に移ります。ここからは、滝沢市総合教育会議運営要綱第2条の規定により、武田市長に議長をお願いします。

○（議長）市長

それでは次第に基づき、議題に入ります。

議題の1つ目として、令和6年度滝沢地域社会報告書について、企画政策課から説明をお願いします。

○（説明）企画政策課総括主査

資料1をご覧ください。現在市では、第2次滝沢市総合計画に基づくまちづくりを進めておりますが、本報告書は、総合計画の進捗具合を幸福実感アンケート調査などにより測定し、それらの数値を取りまとめた報告書であります。

本日この内容を御説明いたしますのは、本市の教育大綱が市の総合計画の教育文化部門計画とリンクをしておりますことから総合計画の進捗について、皆様に御説明をしたいという趣旨によるものであります。

資料1の1ページ目には、総合計画が市民の皆さんの協力と参画によって策定をされたものということ、また、この報告書は、総合計画の取組効果の測定や実現に向けた進捗度を共有するために作成をしているということが記載されています。

別に配付しております、総合計画の概要版パンフレットをご覧ください。そちらでは、第2次滝沢市総合計画では、基本構想が目指す状態を「やさしさに包まれた滝沢」として定め、社会的包摂性が高い地域を創出するための取組を市民と市行政が協力しながら進めることとしていること、その実現に向けた進捗度を測るため、16項目からなる滝沢やさしさ指標と目標数値を設定していることについてまとめております。

報告書にお戻りください。2ページ目になります。

報告の概要であります、第2次滝沢市総合計画の進捗状況を表す滝沢やさしさ指標のうち、15項目中10項目が基準値から上昇しました。

さらに上昇した指標のうち3項目で令和9年度前期の基本項目前期基本計画期間中の目標値を達成している状況となっています。

滝沢やさしさ指標は、3区分からなっていますが、1つ目の将来像指標につきましては、滝沢市で幸せに暮らしている人の割合、滝沢市は活力に満ちた地域だと感じている人の割合の両方とも、基準値から上昇しております。

次に、市民のかかわり指標につきましては8つのうち、4つの指標が基準値より上昇をしたところでございます。

次に、暮らしやすさ指標につきましては、7つの暮らしやすさ指標のうち4つの指標が上昇をしております。

令和6年度は、このように基準値から上昇した指標や目標値を達成した指標もあるものの、人と人とのかかわりに関連する指標など低下した指標も見られることから総合計画期間終了時に目標を達成するため引き続き柔軟かつ効果的な取り組みを進めてまいりたいということでまとめております。

こちらの報告書につきましては、市のホームページへも掲載しております。また、一部数値については、現在行っておりますタウンミーティングにおいて、市長から市民の皆様へ説明をしながら現状について共有を図っているところであります。

以上で説明を終わります。

○（議長）市長

お聞きになった中で何か御質問等ありましたらよろしくお願いいたします。

○（質問）教育委員

市民のかかわり指標の市内公共施設利用者数についてですが、この人数に関して、ビッググループの利用者数も含まれると記載されていますが、イベントなどの来場者も含まれるものですか。

○（回答）企画政策課長

公共施設の利用者数のカウントですが、イベントの来場者も含め集計しているものです。

ビッググループ滝沢では、センサーなどを用い、出入口で、入退場者を捕捉し、カウントしているところであります。

なお、この指標の設定に当たっては、市民相互の関わりの度合いを示す指標として、ビッググループの利用者数を用いた場合、一過性イベント来場者の増加や減少が各年度の数値

に大きく作用する可能性があることに関して議論がありました。結果的に、市自治基本条例では、市内で公益的な活動を行う方も市民として捉えていること、また、市にいらっしやっただく方が多くなり交流人口を増やすための取組を進めることが、市民のかかわりを深めるという意見から、指標として設定したものであります。

○（意見）教育委員

市民のかかわり指標について、直近の市議会議員選挙と直近の市長選挙の投票率という指標についてはよい観点であるとは思いますが、毎年選挙があるものではないので、数値を捉えられない年度があります。そうすると、客観的指標が市内の公共施設利用者数のみになってしまいます。しかし、公共施設利用者数にも大きな数値の振れ幅が見込まれるとすれば、現総合計画の8年間は仕方ないとは思いますが、毎年確実に進捗が分かるような観点から指標設定を検討してはと考えました。

また、指標の数値は滝沢幸福実感アンケート調査の結果をまとめたものとの説明でしたので、アンケートの実施概要についても説明があればより理解が進むものと思いました。

○（回答）企画政策課長

まず市民のかかわり指標の部分であります。おっしゃるとおり、直近の市議会議員選挙、市長選挙の投票率を指標としており、毎年の数値が出てくる内容ではありません。この指標につきましては、市民の市政への関心を高めたいという市の考えや、直接市民の皆さんに影響のある選挙の投票率を高めていくことが市政への関心を持ってもらうになるという市長の考えもあり、指標として入れたという経緯があります。ご意見を踏まえ、より客観的に定点観測できるような指標の検討につきましては、後期基本計画時や第3次の総合計画の策定時に検討を進めていきたいと考えております。

また、滝沢幸福実感アンケート調査の概要についても説明した方が良いでしょうとの御意見もいただきました。滝沢幸福実感アンケートにつきましては、平成17年から基本的なアンケート項目は変えずに、市民が日頃感じていることなどを調査しているものであります。調査方法につきましては、市内に住所を有する満18歳以上の方々を無作為で抽出しまして、令和6年度は3,200人の方に郵送させていただいております。令和6年度は有効回答が1,037件ということで回収率は32.4%となっております。

このように、長期間にわたって市民の意向を定点観測しているアンケート調査は、県内の自治体でも少なく、本市では貴重なデータを積み上げて来ております。市民の考え方の移り変わりなどをこのアンケートをもとにしながら分析して、計画策定などに生かしているという状況であります。

○（意見）教育委員

暮らしやすさ指標に教育委員会や子どもが関係する指標として、子ども達が生き生きとしていると感じている人の割合がありますが、今回その割合が2.9ポイントも減っていることについて、少し衝撃を受けました。私達は広報などでも子ども達がスポーツや文化関係で活躍していることを知っており、そういったものを見れば子ども達が頑張っていると当然思ってくださいるはずだし、学校に子ども達を通わせている保護者も、おそ

らく生き生きとしていると感じてくださっているのではないかと考えていますが、それら以外の子ども達と接する機会がない方々の感じ方がこのような結果につながっているのではと想像しています。そうした場合、その子ども達との関わりをどうやって増やし、元気に、地域で頑張っている子ども達がたくさんいることをもう少しPRできるような場を、市や地域でも考えていく必要があるのではと感じました。

○（回答）企画政策課長

子ども達が生き生きとしていると感じている人の割合は、御指摘のとおり2.9ポイント下がっております。委員がおっしゃるとおり、教育環境の充実などにも取り組んでおり、また、実際に子ども達の活躍もスポーツ文化とともに顕著であると捉えており、そういった部分の周知、PRについては、市教育委員会のみならず市当局としても頑張っていかなければならないと感じております。アンケートでは、現在子どもをお持ちでない方々も含め感じ方を聞いておりますので、例えば高齢世帯の方であれば、感じ方も違ってくるのかなというところはあると思いますので、そのような方にどう伝えていくべきかについて我々もまた改めて考えていく必要があるのかなというふうに感じております。

○（意見）教育委員

積極的に挨拶を交わす人が多いと感じている人の割合も減少しています。地域で子どもを育てて欲しいという願いが私にはありますが、地域で子どもを育てていくためには、子ども達が私達はここにいるよという発信をしなければならないと考えています。その時には、子どもからだけではいいのですか、まずは子ども達から積極的に挨拶を交わしていく必要があります。どこの学校でも挨拶運動に取り組んでいますが、もう一工夫しながら、その子ども達だけではなく地域住民の方々も一緒に挨拶運動をしていくような機運を高めていけば、子ども達が道すがら、全然知らない人、高齢者の方にも「こんにちは」と声をかけるような状況が増える。そういった挨拶の花が広がってゆくと、子ども達も元気だな、子ども達から元気を貰えたなという気持ちになっていくのではと思っております。学校もですが、地域の方でも今一度挨拶ということに焦点を当てながら、進めていただくことで、いろいろなことが良い方向に変わっていくのではないかと期待しています。

○（回答）市長

ありがとうございます。総合計画の概要版パンフレットには、策定に当たったの市民との意見交換時にいただいた御意見の内容が記載されていますが、「スクールガードさんを見るとやさしさを感じる」や、「子どもの笑い声が聞こえるまち」であったり、「子どもの遊ぶ場所を守れるまち」、「子どもが横断歩道を渡った後のお礼を見たとき」など、子ども達を中心にした地域づくりを進めたいという市民の皆さんの想いを本当に感じたところでした。我々も今の説明の中で様々話させていただきましたけれども、まず本当に地域の皆さんとともに子ども達を育てていくあるいは子どもが地域の皆さんからいろんな声をかけてもらえる、そして関わりを感じるというそういった関係性を作っていければと私も考えているところです。

さきほど、子どもたちの活躍のPRについて御意見もありましたが、広報には、市出身

でプロ野球で活躍している選手や、小中学生の様々な大会での雄姿なども掲載していますが、あまりにも活躍しすぎて当たり前になっているのか、あるいは、全く広報を見てない方も多いのではと感じています。まずは見ていただける広報づくりをしていかなければならないなと感じているところです。また、伝え方に関しては環境の変化も感じています。現在、国勢調査を行っていますが、調査員によると玄関で世帯の代表の方のお名前を聞いているのですが、答えるのを嫌がられる。個人情報を知られたくない、相手の方を信用しないなど、そういった環境がやはり個人情報、あるいは人と関わることを自ら遮っているところもあると感じています。時代の変遷によって、今まではいろんな方々と同じような感覚できていたものが、個人ごとの感じ方によって変わってきており、難しい状況も増えてきたと感じているところです。しかし、先ほどもお話ししたように、市民の皆さんからいただいた御意見では、やはり子ども達に対して、こうあってほしいという意見がたくさんあったこと、これは事実ですので、そういった部分を伸ばしていけたらと思っています。

○（議長）市長

その他御意見ありますでしょうか。

（なしの声）

それではこの議題の協議を閉じさせていただきます。続いて、議題の2つ目、学校配置の会計年度任用職員の活用について学校教育指導者と学校総務課からの御説明をお願いいたします。

○（説明）学校教育指導課長

会計年度任用職員の状況について資料2に基づき説明いたします。

それでは配置状況についてであります。10種に対しまして、合計47名を配置しております。特に特別支援教育支援員は、令和5年度の18名から令和6年度には、21名、今年度は、22名と増員した配置となっております。そして部活動支援員につきましては、令和5年度の6名の配置から令和6年度以降10名に増員した配置となっております。

また、ICT支援員1名と、すずのねサポートスタッフ9名については、令和7年度新規の配置となっております。

次に活用状況につきましては資料に掲載のとおりであります。

次に成果についてであります。全体的に学校が抱える課題からの要望に対し、適切な支援員の配置によって児童生徒に対するきめ細やかな支援はもとより、教職員に対するサポートによる負担軽減に繋がっております。特に特別支援教育支援員については、多様化する児童生徒への支援ということで学校事情に応じて複数配置等の柔軟な対応により教職員をサポートしておりますし、学校司書につきましては、小学校児童に対する図書館教育の充実、それから読書指導の推進のために重要な役割を担って、学校をサポートいただいております。

あったかハート支援員につきましては、生徒数が多い3中学校に配置しています。学校不適応傾向の生徒への支援をはじめ、校内教育支援センターの環境整備等にも大きな役割を

果たしております。

部活動支援員につきましては、競技未経験又は専門外の部活動顧問の指導面のサポートが絶大であります。生徒にとっては専門的な技術指導を得られる機会にもなっており、効果的に機能しております。

学校教育専門員及び適応指導教室指導員についてであります。退職校長の配置によりこれまでの豊富な実践経験のもと、保護者への的確な助言や支援が行われております。また、フレンド滝沢への通級生徒の中には、学校への登校復帰も実現しております。

I C T支援員につきましては、専門的なスキルを活かしてG I G Aスクール構想の推進と県内統合型校務支援システムの運用開始による相談窓口・現場対応により、効果的に機能しているところであります。

私からの説明は以上となります。

○（説明）教育総務課長

只今、学校教育指導課長から、すずのねサポートスタッフについて説明がありましたが、同スタッフは教育総務課所管となっておりますので、私から詳細について説明いたします。資料は2ページ目になります。

すずのねサポートスタッフにつきましては、コロナ禍におきましてはスクールサポートスタッフとして、県及び市費により各学校に教職員の業務支援として配置しておりましたが、コロナ禍後、教職員の働き方改革という意味合いも大きく受け、令和7年度からスタートした制度となっております。

サポートスタッフは小学校の6校に全部で9名を配置しており、その内訳は資料に記載のとおりです。

業務内容としましては、従前はスクールサポートスタッフということで先生方の事務補助がメインでしたが、すずのねサポートスタッフは、特にも児童の見守り活動を新たに追加し、この部分に力を入れて取り組んでおります。

成果としましては、児童の様々な先生方の活動補助によりまして、安全安心の確保がされております。また、教職員の時間外在校等時間数が昨年度同期に比べて2時間ほど減っているという効果も出ております。このことから教職員の教材研究や児童への指導、保護者対応等の時間の確保が図られているということで先生方の様々な業務活動教育活動の支援ができていますと捉えているところであります。

説明は以上となります。

○（議長）市長

それではただいまの説明について何かご質問等ありましたらよろしくお願いいたします。

○（質問）教育委員

非常に重要なその職員の配置をなさっているなということで伺いました。教えていただきたいのですが、例えば医療的ケア児の対応など専門的なスキルが必要だなと思えますし、学校司書の方も資格を取っても採用される場所がなく困っているという話もよく聞くのですが、会計年度任用職員としてその年度ごとに職員を採用するというようなことであると、

毎年度職員が代わってしまうことで、知識・経験や学んだスキルなどの継続についての課題があるのか伺います。

○（回答）教育総務課長

会計年度任用職員の全般的な考え方として1年となっていますので、その中で毎年雇用していく形にはなっていますが、実際のところでは、人事評価や面接を経た上で継続任用することが多い状況となっています。しかし、ずっとというわけではなく定期的に公募も行いつつ、任用することとしています。

知識や経験などの継続についてですが、会計年度任用職員も人事評価により目標設定や評価面談を行っていますが、それらを通じ、日常の勤務で気付いたことなどの課題を各学校内や教育委員会内で共有していく形となっています。

○（意見）教育長

本日は、市の会計年度任用職員の件ですが、岩手県教育委員会でも学校支援ということでスクールカウンセラーや特別支援員やすこやかサポート、学校生活サポート、中学校の別室登校している生徒への支援などの人材も含め15名配置していただいております。

市ではこのほかに51名もの会計年度任用職員を採用し、このようにきめ細かに児童生徒の安全・安心、特に心にも寄り添った形で指導や、見守っていただける体制を整えてくださっています。それによって、教職員は安心して授業づくりや、1人1人の子ども達に向き合う時間が確保されており、滝沢市にとっての素晴らしい実践に繋がっていると感じています。また、課題や不安を抱え配慮しなければならない子ども達に寄り添っている職員がこのくらいいらっしゃるということで子ども達の学校生活の安定と安心して学習に向き合える環境に繋がっているということが非常に大きな成果であると思っており、不登校の出現率の低さや、不登校になったとしてもそこから回復できる子ども達の数が多いことにもつながっていると感じています。

また今年度からの9名のすずのねサポートスタッフの配置によりまして、業務の支援はもとより、1人1人に寄り添って図書館や保健室にいる子ども達の様子もしっかりと見守ってあげることができており、先生方が集中して授業に臨める環境ができたということで働き方にも大きな効果が上がっています。

これら会計年度任用職員の中には、教員免許を持った方々も手を挙げてくださっています。しばらく学校から離れていたもので、担任などはすぐにはなかなか難しい場合もありますが、短時間勤務の中でもその方の人柄や、子どもへの関わり方、授業への向き合い方などを見ていて、現在、先生や講師のなり手の不足が大きな課題になっていますが、そういう方々を推薦することによって、教員不足にも対応可能な取組というものも、この51名の会計年度任用職員の採用という取組の中で見えてきているという利点もあります。

いずれにせよ、様々な子ども達の状況に応じた対応がこのように組めていることは、滝沢市の誇るべき教育システムであると考えており、教育委員会といたしましては、そこに教育予算を大きく割いていただいているということで感謝しているところであります。

○（意見）市長

私からもお話しさせていただきます。今回は取組の成果などを伺いたく、議題とさせていただきましたが、実は、令和7年度の当初予算を組む中で、すずのねサポートスタッフ分については、予算計上を見送るべきとの意見がありました。しかし、教育長と協議を行い、やはり教育は人であり、人がいかに声を掛けるか、それが一番大事なので、限られた予算であり各部局ともそれぞれ思いがある中ではありましたが、予算計上したいと担当部局に伝えた取組であります。

5歳児健診なども新たに行っていますが、いろいろな課題があることが分かってきています。例えばケンケンパができない子どもなどです。共働きの増加なども影響し、家の中で過ごす時間が増え、外で遊ぶ経験が減っていることも影響しているのかもしれない。子ども達の今後の成長を考えると、委員もおっしゃっていたとおり、地域で子どもを育てるという環境をつくっていかれると思っています。5歳児健診は、全国でも14%程度の自治体でしか行っていない取組ですが、保育園、小学校、中学校と連携しながら子ども達の健やかな成長に繋げていけるような環境をつくっていきたいと私は教育長とも考えているところであります。

子ども達の頑張りにも我々応えていかなければならないと思っていますので、この後も会計年度任用職員の活用については、いろんな側面からも取組を進めていきたいと考えています。

○（意見）教育委員

今いろいろお話を伺いしてやっぱり滝沢の子ども達は恵まれていると改めて感じました。昨年度から比べて特別支援教育支援員や部活動指導員も増え、新設スタッフもあるということで、予算計上を見送るべきという意見を説得して取組を進めていただいているということに感謝しています。家族も教員をしておりますが、支援員さんが一生懸命やってくれており感謝していると話していました。

○（意見）教育委員

私は県内で教育支援の取組をしていますが、今年度県内の高校へヒアリングする中で、盛岡北高の先生と話をしたときに、滝沢市では、市長自らや、滝沢市役所の職員さんがいらっしゃるって、「生徒の助けになることがあれば」と話してくださったとの感謝のお話を伺いました。今日の話を受け、紹介させていただきます。

○（議長）市長

ありがとうございます。そのほか、ありますでしょうか。

（なしの声）

○（議長）市長

それでは、議題の2を閉じさせていただきます。

議題は以上となります。これで議長の座を降ろさせていただきます。どうもありがとうございました。

○（司会）企画政策課総括主査

それでは次第４「その他」に移ります。その他皆様から何かありますでしょうか。

（なしの声）

○（司会）企画政策課総括主査

それではないようですので、これをもちまして令和７年度第１回滝沢市総合教育会議を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。